



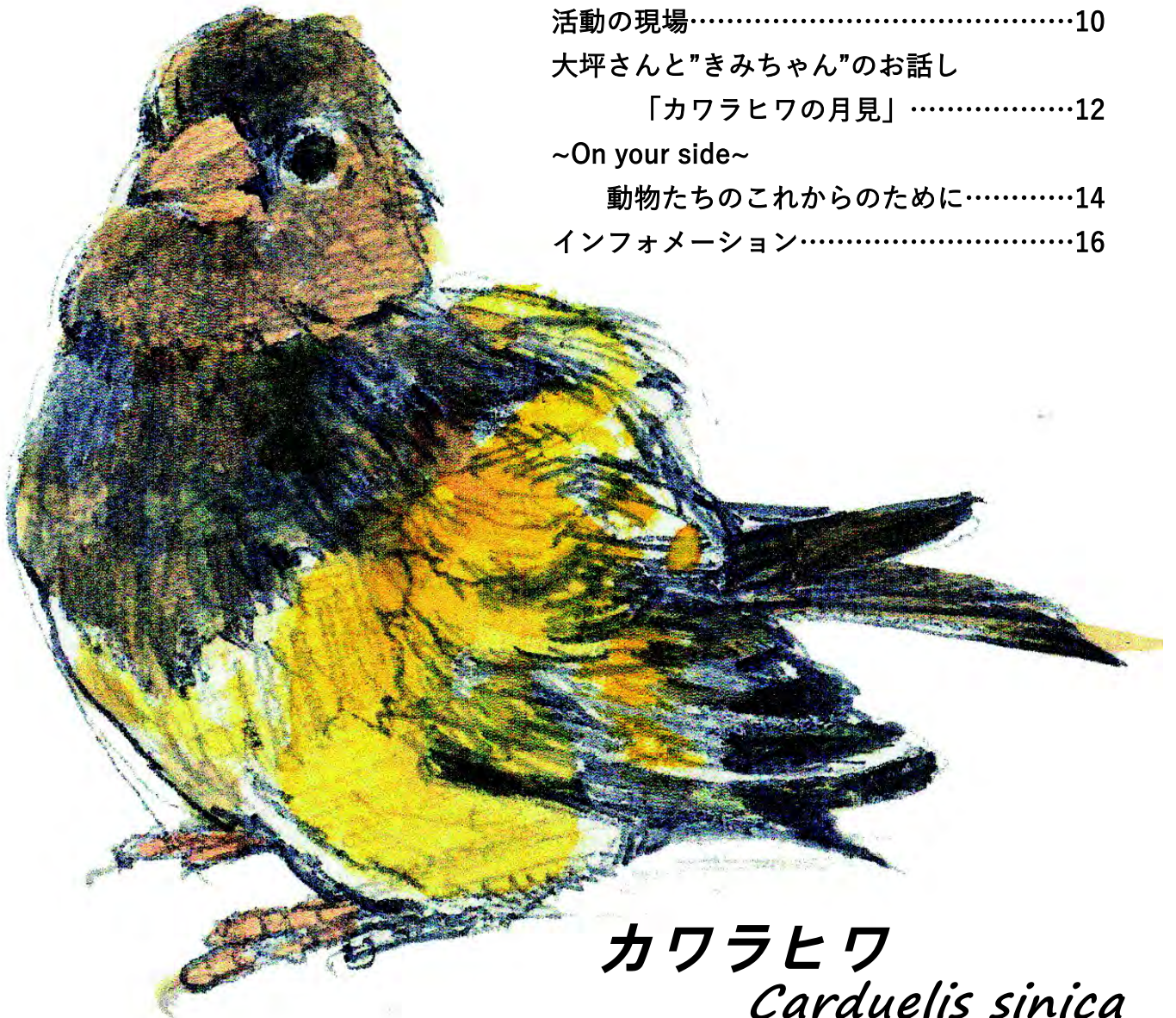
RUNNER

Vol.28

10年目を迎えて 渡辺 優子……………2
野生動物救護の会設立10周年
お祝いのご挨拶 鳥海 弘……………3
「野生動物救護の会」
設立10周年に寄せて 山根 正伸……………4
10周年記念活動 ……………5



野生動物救護の会10年間の記録…………… 6
活動の現場……………10
大坪さんと”きみちゃん”のお話し
「カワラヒワの月見」……………12
~On your side~
動物たちのこれからのために……………14
インフォメーション……………16



カワラヒワ
Carduelis sinica

10年目を迎えて

NPO 法人野生動物救護の会

理事長 渡辺 優子

皆様のご支援のおかげで、早いものでこの秋で10周年を迎えます。野生動物救護の会は、神奈川県自然環境保全センターの傷病鳥獣保護ボランティア有志から立ち上がった(現在は野生動物救護ボランティアに改名)NPO 団体です。代表を務める私ですが、知識もない専業主婦です。前代未聞と感じています。そんな私を支えてくれているのは、優れた理事とスタッフの皆様です。この10年間、野生動物たちのために尽くしてくれているスタッフには感謝しております。野生動物を取り巻く環境は、10年の間にも色々な変化が見られます。いろいろな問題として、原発事故、鳥インフルエンザ、外来生物、温暖化、気候変動などがあります。数を上げればきりがありません。当会が目指す目標で、「人間と野生動物のよりよい共存」。共存って何でしょうか。とても難しい問題です。これからの大きな課題です。日本という小さな国、社会生活の便利さを求めつづけ環境破壊は進み、行き場をなくした野生動物。一見自然が豊かそうな森林でも動物の立場からは荒れ果てて、住みづらいはずです。人間だけが、地球の住人ではない事にみんなに少しでも気づいてほしいのです。傷つく野生動物を救い、少しでも減らしたい。私たちの出来る事を積み重ねて、周りにも伝えていく。野生動物が野生らしく生活できる環境を次世代にも残してあげたい。そんな想いでこれからも進んでいきます。でも、独走では転ぶか穴に落ちるかです。共に肩を並べ、時には手を差し伸べて、一緒に進んでくれるスタッフと会員さんたちと共に歩みたい。

(みんな～ついて来るのだヨ)最後に、いつもご支援、ご協力を頂いている神奈川県自然環境保全センター職員の皆様、ご指導、ご協力を頂いている先生方、小さな命を救おうと努力をいとまない一般の方々、沢山の方々に支えられて活動できています。本当にありがとうございます。そして、どうぞ今後とも野生動物救護の会をよろしく願います。



野生動物救護の会設立10周年お祝いのご挨拶

公益社団法人神奈川県獣医師会
会長 鳥海 弘

NPO 法人野生動物救護の会が設立 10 周年を迎えられたこと誠におめでとうございます。今日までの道のりは、渡辺理事をはじめ役員の方々の大変なご苦労と多くの会員の皆様の固い結束による賜物と推察しております。その活動は、神奈川県自然環境保全センターを拠点に、野生動物の救護、救護ボランティアの育成、講習会、小学校児童を対象とした普及啓発など多岐にわたっており、今や神奈川県のみならず全国の野生動物保護活動団体としてもその存在を確立されたものと心から敬意を表するものです。私ども神奈川県獣医師会は、平成 25 年 4 月に公益社団法人に移行しましたが、公益目的事業を「人と動物が共生できる環境を築くことで地域社会の健全な発展を目的とする事業」としました。獣医師会は、職能団体としてその技能をもって社会貢献する使命がありますが、具体的な事業の 1 つに野生傷病鳥獣保護活動も含まれております。県民によって会員の動物診療施設に持ち込まれた野生動物の治療を行うことを主な目的としていますが、治療した動物から得られる様々な情報は県に報告され、野生動物生態系を知る基礎情報だけでなく、動物由来感染症対策にも活用が可能です。我が国の野生鳥獣保護管理の分野は様々な課題が指摘されていますが、技能を持つ人材の不足、乏しい予算、市町村への権限移譲による行政対応の足並みの不揃いなど対策が十分とれないため、イノシシ、シカ、サル、クマ等による農作物や人への危害だけが大きく報じられていることは残念なことです。野生動物救護ボランティア講習会には、獣医師会もささやかながらお手伝いをさせていただいていますが、今後とも協力関係を深めて野生動物救護の輪を広げてゆきたいと願っております。貴会のますますのご発展を祈念してお祝いのご挨拶とさせていただきます。



「野生動物救護の会」設立10周年に寄せて

神奈川県自然環境保全センター
自然保護公園部長 山根 正伸

まず、当センターにおける傷病野生鳥獣救護の業務に一方ならない御協力を頂いております「野生動物救護の会」が設立10周年を迎えられ、記念誌を刊行されますことに対しまして、心からお慶び申し上げます。また、同会が、平成19年にNPO法人化される以前より長年にわたって当センターを拠点として、渡辺理事長をはじめとした幹部の方々及び会員各位の強い熱意と御努力により、治療や飼育、さらには普及啓発に取り組んでこられたことに、深い敬意と感謝の念を示す次第です。当センターにおける傷病野生鳥獣救護業務を振り返りますと、現在の「自然環境保全センター」の前身であった「自然保護センター」が設立されて間もなく中核事業の一つとして開始されたもので息の長い取組となっております。当初は獣医が配置されておらず、治療や飼育に大変御苦労されたと聞いておりますが、その後は獣医職の県職員が配置され徐々に体制も整い、熱心なボランティアさんにも支えられながら一つ一つ課題を解決し、今では年間600件前後の傷病野生鳥獣を受け入れるまでとなりました。私は、所管の部長として着任する以前にも、同じ敷地内にあった「林業試験場（後の森林研究所、現在の研究連携課）」に長年勤務しておりました。この関係で、30年近い年月、この業務をごく身近で見聞きしており、1年365日休みのないこの業務が前進してきた原動力としてボランティアさんの活躍が非常に大きかったと実感しております。また、「野生動物救護の会」がNPO法人化されたこの10年間は、以前にもまして緊密な県との連携のもとで、ボランティア講習会等を通じた人材育成や普及啓発活動を積極的に展開されてきたことは、事業の発展に大きく寄与してきたと考えています。今後も、この業務をさらに充実させ、当センターの基本任務である本県の自然環境の保全に今以上に役立つよう微力ながら一緒に取り組んでいけたらと考えておりますので、引き続きよろしく申し上げます。最後になりますが、貴会の一層のご発展と皆様方のご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉といたします。



10周年記念活動



2017年度 野生動物救護の会 総会の報告

5月20日(土)、厚木市役所第2庁舎16階会議室にて、第10回定期総会および10周年記念講演会が開催されました。総会では平成28年度の活動報告・決算報告、平成29年度の活動予定・予算案が承認されました。

総会後は副理事長でもあるプロカメラマン佐藤信敏氏による10周年特別記念講演会「写真から読み解くツバメの現状(福島ツバメの調査報告)」が行われました。ツバメの訪れを見て春が来たな…と思う人も少なくないでしょう。そんな身近な存在のツバメが見られなくなることを想像できるでしょうか?福島県のある街では一時それが現実となりました。民家の倒壊や除染作業による巣の排除、そして人々の生活が消えたことが大きな原因として考えられています…。その後、復興が進み人々の生活が戻り始めるとともに飛来するツバメも少しずつ増えてきたそうです。この話を聞いて人の暮らしとツバメがとても密接につながっていることを知りました。ツバメに限らず野生動物と人とはどこかで何らかの関係を持っていることは確かです。野生動物救護の会のこの節目にふさわしい講演会でした。



誤認保護の防止を呼び掛けるチラシ配布活動

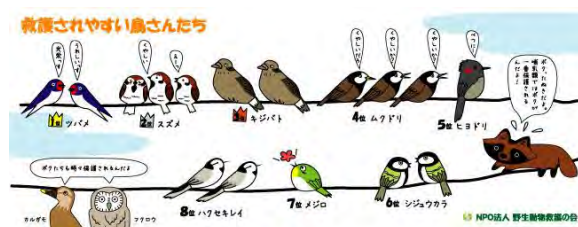
今年度は野生動物救護の会の設立10周年の記念行事の1つとして、野生動物救護において大きな課題である『誤認保護』防止の必要性を1人でも多くの市民の皆様知ってもらうためのチラシの配布を行いました。5月27日(土)、厚木市本厚木駅前にて野生動物救護の会の旗を立て、そのそばにケガをした野鳥の写真パネルや、募金箱を置き、参加者は救護の会のジャンパーを着てチラシを渡しながらかつて誤認保護の防止を訴えました。

野鳥の誤認保護を防止するためにはまず身近な野鳥たちの存在を知ってもらう必要があります。この活動により野生動物救護に関心を持ち、巣立ちヒナの誤認保護について考えてくれる方が増えると信じてこれからも続けていけたらと思っております。



10周年記念!! 野生動物救護の会オリジナル手ぬぐい

第10回定期総会および10周年記念講演会の開催に伴い受付では設立10周年記念手ぬぐいを出席者の方にお渡ししました!理事でもある平沼さんがデザインした保護されやすい鳥たちが親しみをもちやすいようとてもかわいらしく描かれた特別手ぬぐいです♪



野生動物救護の会 10年間の記録

- 2月5日 野生動物救護の会 かながわ設立
- 6月3日 野生動物救護ボランティア講習会
- 11月3・4日 ジャパン・バード・フェスティバル出展
(オオバン賞受賞)(~2014年まで毎年参加)
- 11日 ボランティア交流会
- 12月2日 大掃除・豚汁大会(~毎年開催)
- 7日 環境教育「森に住む生き物たち」

- 1月13日 探鳥会(小町緑地)
- 5月12・13日 野生動物救護ボランティア講習会
- 19・20日 東京バードフェスティバル出展
(~2012年まで毎年参加)
- 7月1日 Mプロジェクト設立

2006



オオバン賞受賞

2007



10月2日 **NPO 法人野生動物救護の会設立**

- 1月 スキルアップ勉強会(全6回開催)
- 19日 探鳥会(小野橋から)
- 2月10日 探鳥会(横浜自然観察の森)
- 4月 RUNNER Vol.1発行(以降定期的に発行)
- 5月17・18日 野生動物救護ボランティア講習会
- 6月1日 第1回定期総会
特別講演会「猛禽のリハビリ」
田籠善次郎氏
- 6月30日 環境教育「森に住む生き物たち」
- 7月6日 リハビリ用ケージ「鳥カフェ」建設
- 13日 ボランティア新旧交流会
特別講演会「野生動物・保全医学の最前線で」根上康子氏
- 9月3~7日 野生動物医学会神戸大会ポスター発表
- 20日 特別講演会「神奈川のリスとムササビ、モモンガ」東京農業大学 安藤元一先生
- 25日 環境教育「野生動物と仲良くなるう」
- 10月19日 動物フェスティバルかながわ2008in さがみはら出展
- 11月2日 あつぎ環境フェア出展(以降開催年毎回参加)
- 3日 秦野市民祭り出展(以降毎年参加)
- 9日 海岸清掃及び探鳥会(三浦半島毘沙門海岸)
- 28日 探鳥会(宮ヶ瀬早戸川林道)
- 12月 「ゴミに悩まされる傷病鳥獣」パネル 展示 ズーラシア



スキルアップ勉強会

2008



東京バードフェスティバル

- 1月14日 神奈川県傷病鳥獣保護連絡協議会参加
- 25日 スキルアップ勉強会(全6回開催)
- 2月4日~ 「海ゴミ.GO ME」展 ズーラシア
- 2月27日 「学生のための野生動物救護国際ワークショップ」理事長渡辺優子講演「私たちに何ができるか」
- 3月16日 環境教育「環境講座」
- 3月24日~ 「海ゴミ.GO ME」展 野毛山動物園
- 4月18日 羽根標本作成(以降定期的に開催)
- 21日 環境教育「ボランティア論」(野生動物救護の現状と救護ボランティア)
- 28日 衝突調査(秦野市立図書館)(以降毎月実施)
- 5月14日 環境教育「七沢に住む生き物たち」



ボランティア講習会

2009

- 5月16.17日 野生動物救護ボランティア講習会
- 6月27日 第2回定期総会
特別講演会「レンズがとらえたツバメの秘密」佐藤信敏
- 7月14日 環境教育「秦野エコスクール〈動物と仲良くなろう〉」
- 19日 WRV 神奈川支部リハビリテーター及び新人ボランティア交流会
- 9月20日 「海ゴミ.GO ME」展 1DAY イベント開催
- 10月4日 ボランティア研修会 講演「樹洞にくらす生き物たち」生命の星・地球博物館 広谷先生
- 12日 「ハウトワシに会えた」ーアメリカ野生動物救護現場から」高橋恵
- 12月13日 動物フェスティバル神奈川 in ふじさわ
講演「神奈川県野生動物救護の現状」佐藤友哉 「野生動物救護の現場」高橋恵 「野生動物との付き合い方」安井啓子

2009



鳥カフェ完成

2010



タカの渡り観察会(長野県白樺峠)

- 2月2日 企画展示「人のくらしのかげで傷つく動物～5月22日たち」
- 2月20日 講演「野生動物とのつきあい方」安井啓子
- 5月15・16日 野生動物救護ボランティア講習会
- 6月13日 探鳥会(秦野市札掛け周辺)
- 15日 環境教育(秦野市立上小学校)
- 20日 秦野市「市民活動サポート事業」支援金公開プレゼンテーション 秦野市立図書館衝突調査について
- 27日 第3回定期総会
- 7月25日 WRV 神奈川支部リハビリテーター及び 新人ボランティア交流会
- 9月23日 ボランティア講習会修了式
- 25・26日 タカの渡り観察会(長野県白樺峠)
- 10月3日 動物フェスティバル神奈川 in ちがさき・さむかわ参加
- 12月19日 特別講演会「人、動物、そして自然～北の動物医の叫び」森田正治先生
- 25日 探鳥会(平塚市土屋周辺)

- 2月19日 スキルアップ勉強会(全4回開催)
- 5月12日 環境教育「森林の環境と生き物」
- 5月21・22日 野生動物救護ボランティア講習会
- 6月1日 (財)日本鳥類保護連盟より「野生生物保護功労賞」受賞
- 4日 探鳥会(宮ヶ瀬湖周辺)
- 26日 第4回定期総会
特別講演会「歌と野鳥にまつわる楽しい話」永井真人氏(♪鳥くん)
- 7月9日 WRV 神奈川支部リハビリテーター及びボランティア交流会
- 9日 探鳥会(自然環境保全センター周辺)
- 7月28日 夏休み体験教室「野生動物を学ぶ」
- 8月27日 夏休み体験教室「野生動物を学ぶ」
- 9月25日 ボランティア講習会修了式
- 10月9日 「保全センターの樹洞性鳥類の調査と講習会」安藤元一先生
- 16日 動物フェスティバル神奈川 in 鎌倉
- 10月11日 放課後教室(厚木市立相川小学校)
- 3日 はたの市民祭り(以降毎年参加)
- 11月5日 「第8回野生動物保護セミナー in 関東」理事長渡辺優子講演

2011



夏休み子ども体験教室「野生動物を学ぶ」



秦野市民祭り

2012

- 1月14日 「保全センターの樹洞性鳥類の調査と講習会」藤井幹氏
- 1月20日 放課後教室(厚木市立相川小学校)
- 2月14日 「島根県野生鳥獣救護講習会」理事長 渡辺優子講演
- 3月24日 春休み体験教室「わくわく野鳥探検隊」
- 4月24日 東京農業大学講演「ボランティア論」
- 5月18日 放課後教室(厚木市立相川小学校)
- 6月2・3日 野生動物救護ボランティア講習会
- 22日 放課後教室(厚木市立相川小学校)
- 23日 第5回定期総会
特別講演会「カラスから学ぶ」松田道生氏
- 8月25日 夏休み子ども体験教室「野生動物を学ぶ」
- 9月26日 足環プロジェクト勉強会(加藤ななえ氏指導)
- 29日 ボランティア講習会修了式
- 10月19日 野鳥観察舎見学と足環プロジェクト勉強会(佐藤達夫氏指導)
- 21日 子ども・若者と自然のフォーラム展示参加
- 11月4日 ABiKo～Asia Birds Convention～
理事長 渡辺優子講演
- 12月8日 講演会「鳥に標識をする」藤井幹氏
フクロウ調査報告会(安井・平・黒谷)
- 15日 探鳥会「カモの仲間を求めて」(泉の森、相模沈殿池)

- 2月23日 探鳥会「冬の野鳥」(早戸川林道)
- 3月23日 春休み子ども体験教室「わくわく野鳥探検隊」
- 5月10日 放課後教室(厚木市立相川小学校)
- 26日 探鳥会(八菅山いこいの森)
- 6月2・16日 野生動物救護ボランティア講習会
- 30日 第6回定期総会 特別講演会「個体の死と個体群の維持～これから私にできることは」鈴木茂也氏
- 7月28日 スキルアップ勉強会(全4回)
- 8月3日 夏休み子ども体験教室「野生動物を学ぶ」
- 9月21日 ボランティア講習会修了式
特別講演会「野生動物救護と理念」齋藤慶輔氏
- 10月14日 動物フェスティバル神奈川 in 厚木
「ハーモナイズ賞」受賞
- 12月7日 探鳥会「カモの仲間を求めて」(酒匂川周辺)
- 14日 探鳥会「身近な野鳥」(自然環境保全センター周辺)

2013



放課後教室

- 1月19日 探鳥会「冬の野鳥」(早戸川林道)
- 2月22日 探鳥会「カモの仲間を求めて」(三段の滝、相模川沈殿池)
- 3月29日 春休み子ども体験教室「わくわく野鳥探検隊」
- 4月15日 東京農業大学「ボランティア論」講義
- 20日 探鳥会「石砂山ハイキング」(石砂山)
- 5月3日～ パネル展示「傷ついた野生動物たち」(MARK is みなとみらい)
- 6日 体験型イベント「傷つく野鳥たち」(MARK is みなとみらい)
- 17日 第7回定期総会、懇親会
- 23日 放課後教室(厚木市立相川小学校)
- 7月1日～ パネル展示「傷ついた野生動物たち」(自然環境保全センター)

2014



探鳥会「冬の野鳥」(早戸川林道)

2014



春休み子ども体験教室
「わくわく野鳥探検隊」

- 1月24日 探鳥会「冬の野鳥」(早戸川林道)
- 2月15日 講演会「たかが羽、されど羽」
- 5月30日 第8回定期総会、懇親会
- 6月20・21日 野生動物救護ボランティア講習会
- 8月1日 春休み子ども体験教室「野生動物を学ぶ」
- 9月～ 保護猛禽類の生息実態調査(委託業務)
保護猛禽の「リハビリ」等(委託業務)
- 10月10・11日 ワールドフェスタ・よこはま 2015
保護猛禽類の役割や生息実態情報展示(委託業務)
- 11月3日 動物フェスティバル神奈川 in はだの
- 12月～3月 猛禽類保護記録の地理データベース化と分析(委託業務)

- 8月1日～ パネル展示「傷ついた野生動物たち」
(秦野市立図書館)
- 8月2日 春休み子ども体験教室「野生動物を学ぶ」
- 9月19日 環境教育「野生動物救護に関する環境教育」
- 10月5日 動物フェスティバル神奈川 2014 in 西湘
- 16日 環境教育(厚木市立清水小学校)
- 11月29日 体験型イベント「野鳥のための巣箱を作ろう」(MARK is みなとみらい)

2015



ワールドフェスタ・よこはま 2015



動物フェスティバル神奈川 in あやせ

2016

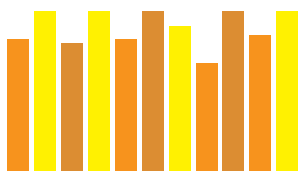
- 2月25日 探鳥会(三段の滝、相模川沈殿池)
- 3月25日 春休み子ども体験教室「わくわく野鳥探検隊」
- 3月～5月 足環プロジェクトに関する企画展示
- 5月20日 第10回定期総会、懇親会
10周年記念講演「写真から読み解くツバメの現状(福島ツバメの調査報告)」
副理事長 佐藤信敏
- 5月27日 誤認保護防止を呼び掛けるチラシ配 布
- 6月3・4日 野生動物救護ボランティア講習会
- 7月29日 春休み子ども体験教室「野生動物を学ぶ」
- 9月24日 ボランティア講習会修了式

- 1月～3月 猛禽類保護データ解析 普及啓発資料作製(委託業務)
- 1月28日 環境教育(厚木市立清水小学校)
- 31日 猛禽類保全学習会(委託業務)
- 2月7日 探鳥会「カモと冬鳥」(三段の滝)
- 13日 探鳥会「冬の野鳥」(早戸川林道)
- 3月1日～ 足環プロジェクトに関する企画展示
- 4月9日 ハイキング兼探鳥会(石砂山)
- 5月15日 (財)日本鳥類保護連盟より感謝状受賞
- 29日 第9回定期総会、懇親会
- 6月4・5日 野生動物救護ボランティア講習会
- 7月30日 春休み子ども体験教室「野生動物を学ぶ」
- 9月～2月 保護猛禽類の生息実態調査・保護場所の現地調査(20件)(委託業務)
- 10月23日 動物フェスティバル神奈川 in あやせ
- 12月19日 環境教育(厚木市立相川小学校)

2017

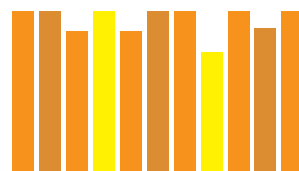


第10回定期総会



活動の現場

このコーナーでは普及啓発活動やイベントなどに参加したボランティアがその体験をもとにレポートしています。



平成29年度 野生動物救護ボランティア講習会の報告

6月3日・4日の2日間に渡り、新たな野生動物救護ボランティアを募集するために講習会が、自然環境保全センターにおいて、開催されました。3者主催（保全センター・獣医師会・野生動物救護の会）の講習会は、毎年多くのボランティアを生んで来ました。今年も、37人の参加者が、講義や体験研修を通して、野生動物との向き合い方や、関わり方などを学んでくれた事と思います。

講習会の内容を一部紹介

- ☆野生動物関係の法規 ☆神奈川県野生動物の現状
- ☆衛生管理 ☆救護・応急処置と動物の体のしくみ

☆野生動物救護の理念と目的 動物園の役割

講師 横浜市金沢動物園 森角先生



- ・野生動物の救護とは？
- ・野生動物って、なんでしょう？
- ・野生動物の財産としての帰属
- ・傷病鳥獣の救護とは
- ・動物園って、何をやる所？
- ・獣医でなくてもできること
- ・知っているるとよい動物の性格
- ・保護個体を飼育する上での大切なこと



保全センター 山根部長



講義の様子

☆ボランティア活動の実際

～先輩ボランティアが、各々の想いを熱く語りました。～



ボランティアの加藤さん



ボランティアの飯塚さん



実習 普及啓発



実習 強制給餌

☆体験研修 ・エサの説明 ・給餌実施 ・普及啓発

☆施設見学

暑い1日でしたが、講義も熱い内容が盛りだくさんでした。各講義を受け持った先生方、保全センター職員、野生動物救護の会、野生動物救護ボランティアと大勢のスタッフ協力のもと、無事に終了する事ができました。みなさま、お疲れさまでした。講習会を受講された方々も、まだ、分からない事や不安な事も沢山あると思います。これからの自主研修、実際に傷ついている野生動物たちを通して、いろんな事を学んで、ボランティア登録を目指して下さい。先輩ボランティアの1人として、待っています。今年、受講できなかった方、来年にはチャレンジ！！

2017年 夏休み子ども体験教室の報告

毎年恒例となった、「野生動物を学ぶ 夏休み子ども体験教室」を今年も2017年7月29日（土）、神奈川県自然環境保全センターにて開催しました。

参加してくれた子どもたちは男子1名、女子6名の計7名。朝10時にそれぞれ自己紹介をし、手袋をしたり長靴を履いて身支度を整えてからスタートしました。

まず最初に全員で野生動物の保護されているエリアを見学し、その後3班に分かれて、動物たちの小屋の掃除を体験しました。掃除の後は綺麗になった小屋の中の動物たちに餌を配り、自分たちが与えた餌をガツガツと食べる姿に釘付けになっていました。最初は動物の小屋に入るのもおっかなびっくりの様子でしたが、慣れるとスタッフと一緒にスムーズに行動する事が出来ました。そして、職員さんの指導の元、自分で餌を食べられないツバメのヒナなどにピンセットでヒナの口に餌を入れてあげる強制給餌も体験しました。その後、タヌキ・オオコノハズク・ササゴイに実際に触りながら、その動物たちの詳しい説明を聞き、午前中の活動は終了となりました。

お昼には全員揃ってお弁当を広げ、和気あいあいと食事を楽しみました。

午後は無地の白い手ぬぐいに、鳥の羽や木の葉、動物の足跡スタンプなどを使って、思い思いにアクリル絵の具で絵付けをし、各自カラフルで個性的なオリジナル手ぬぐいを作りました。その後、保全センターにヒナの時に收容され、大きくなったムクドリ6羽を皆の手で放野しましたが、いつまでも地面を歩き回り、中々飛び立たないというハプニングに、笑いが起こる場面もありました。

放野の後は、レクチャールームへ移動し、○×クイズ形式で身近に住んでいる野生動物の怪我の原因を学んだり、獣医さんから神奈川県野生動物救護の現状をパワーポイントの写真やイラストを見ながら説明してもらいました。また、野生動物の怪我を少なくする為にはどうしたら良いのかを皆で考えました。

最後に、各自、自分の作った手ぬぐいを持って記念撮影をしてこの体験教室は終了しました。

当日は朝から太陽が照りつけ、とても暑くなりましたが、皆さんが楽しそうに野生動物たちについて学ぶ姿を目にし、私たちスタッフもやりがいを感じられる1日となりました。

今後もこのようなイベントを行っていく予定ですので、たくさんの参加者が集まってくれると良いなあ、と思います。



傷病舎見学



エサの説明



差し餌体験



たぬぎのハヤ太くん



放野体験



手ぬぐい作り



全員で記念撮影

カワラヒワの月見

大坪奈古

◆◆◆大坪さんと“きみちゃん”のお話◆◆◆

右翼の開放骨折で、センターに保護されたカワラヒワ雄(?)の成鳥。家に来て10年になる。毎朝、鳥籠にかけた布をはずす時、「ああ、今日も生きてる。良かった。」と安堵する。ここ暫くの間に急に衰えてきた為か、長い付き合いのせい、この思いは強い。

当時、小学生の娘の要望でセンターのお世話になり、短期で雀は2度預かったことはあるが、長期は初めて。加藤千晴先生に相談して預かることにはなったが、籠に近づけばバタバタと暴れ口を開け威嚇する。瀕死の大変な目にあつたのだ。片翼は下がり飛ぶ事はできず野生に戻れない。我家に来た時、この状態が一生なのかと覚悟した。長くは生きられないかもしれない。とにかく安心してほしかった。月見と名付け「きみちゃん」と呼ぶ。静かに声をかけ



段々に落ち着いてくる。声や気持ちに反応しているのが伝わる。頭がいい。小さいのにきりっとした賢さがある。止まり木に止まっている時に指を入れると、またぐようになる。家に来てひと月後のクリスマスの頃、手にのるようになり、立膝をした二つの膝をリズムカルに行き来する。手から頭まで登る。屋外に籠をおくと囀り地元のカワラヒワがやってきた。私の通う子供絵画教室では時折モデルを務めた。臆する子の手には乗らなかった。電車や車にも乗った。外出や刺激のある出来事にはよくわからないが、喜ばしい反応(?)をみせる。長野や東北、伊豆。旅行にも行った。

これでは、まるで自分本位のペットではないかと諷められるかもしれないが、私には、他に方法を見つける事はできなかった。話しかけると「キュキュ…」と、気が付けば鳴くようになっていた。娘に言われた。擬声語のように、私たちの言葉を真似てきみちゃんは語っているのではないかと。

空も飛べないこの生活ではと思う一方、勝手だが、長く生きてほしいと願う。

いつからか、朝起きると夜中に止まり

木から、落下するようになった。餌箱の縁につかまって眠るようになった。あの時に、脚の負担を考えて、止まり木を平たく削るなどの工夫をすればよかった。餌も、エゴマや麻の実を控えればよかったと悔やまれる。鳥は弱みを見せないと聞かすが、部屋を歩き回り手にも乗り、遊び、生き生きとみえた。

しかし、一年前の台風の日、帰宅すると、止まり木から落ち、怯えて暴れる姿があった。風の強い日で屋外では植木鉢が割れていた。脚の先は固く、まるくなり開かず、立つ事ができない。明るくないと怖いのか、夜暗くする事はできない。眠る事もできない。もうダメかと思った。死を恐れる野生の本能。

センターに顔をださなくなって久しく、恐る恐る加藤千晴先生に電話を試してみた。先生の勧めによりすぐにグローバル動物病院の廣瀬先生を頼った。「怪我というより、神経の問題でしょう。」「片目は白内障になるほどの年齢もあるのだろう。」と言われる。丸くなった脚先をテーピングしてくださった先生の手は神の手のように、忘れられない。止まり木につかまる事はできないが、歩けるようになった。何より、精神的に安定した様子で、帰路は安心したのか、よく眠った。

落下事件から一年近い今、腹這いに近い状態になり、脚でしっかり立つ事はできない。かろうじて、自力で水を飲み餌も食べている。脚のリハビリもしている

が、片脚は伸び、今日も廣瀬先生に片方は脚の根元から固定されてきた。よくここまで、長い時を生きてくれたと思う。つらい時の私を支えてくれて、家族のようになっていたのが今になってよくわかる。

このご縁を頂いた救護の会の存在に感謝。きみちゃんを知ってから、生きているものはみんな、きみちゃんの姿に重なる。小さくても同じ命。

年を経て白髪のように背や胸の羽はレモンイエローに変わり、まさに月を見るようだ。ちなみに、「月見」を助けて下さった高校生「星美さん」。今は動物関係の仕事をしているらしい。



きみちゃん



～ On your side ～



動物たちのこれからのために

ボランティア歴 12年目の伊熊さんがボランティア活動をしなが
ら日々思うことを文章にしてみました。

羊、羊、羊、羊。。。ニュージーランドは各都市の中心部から車で少し走れば羊しかない様な所に出る。都市によって個性の違いはあるが風光明媚、もしくは心が洗われるといった表現がまさにあてはまる、実に美しく治安も抜群に良い素晴らしい国である。←世界ランキングでは日本より上！そんなニュージーランドは固有の野性動物の宝庫で天敵がないため、特に羽が退化した鳥＝代表格であるキウイ、タカヘ、プケコ、他にも希少な動物達が棲息している。そんな中、昨年私の憧れだった世界遺産であるミルフォードサウンドにバスツアーで行った時の話。

空港から借りていたレンタカーを飛ばし自分で行くつもりだったのだが、ツアーデスクの人に聞いたら専門的な植物の説明、マオリ族の歴史などをガイドの人が通りながら案内してくれるので、かなり英語力が必要だと言われ素直にツアーバスに乗る事にした。しかも片道約4時間かかるのだからガイド付きに便乗した方が楽だしよりニュージーランド事情がわかるだろと思ったからだ。そしてそのバスで道路を走っている時の事。カナダやアラスカ、アメリカ、オーストラリアなど、私が何度も訪れて車で回った事のあるそれらの

国は日本とは比較にならない位壮大、雄大な自然を抱えている。

そんな国で気ままにドライブをしていると必ずと言っていい程道路上に動物たちの轢死体があった。ここニュージーランドも例外ではなかった。ツアーガイドは若い女の子だった。彼女は恐らくワーキングホリデーでニュージーランドに来ているのだろう、あ～あ、いいなあ私もやりたかったなあ…なんて思っ、はともかく。「こうして走っていると皆さん、動物が轢かれているのを目にします。彼等はほぼ間違いなくポッサムと言って人間がオーストラリアから持ち込んだ動物です。あるドライバーの話ですがポッサムを轢いたら引き返してもう一度轢けとまで言ったそうです、それ程ポッサムはニュージーランドでは忌み嫌われている動物なんですね。彼等はニュージーランドの貴重な鳥達が飛べないのをいい事に片っ端から食い荒らしたため、その鳥達が激減し絶滅の危機に瀕しました。しかしそのポッサムたちはオーストラリアでは保護対象になっています」…私はこのアナウンスを聴いて絶句した。ポッサムに何の罪があったのだろう。彼等は自力で海を泳ぎニュージーランドまで渡って来た訳ではな

いのだ。仮にそうだったとしたら地球上の生物の何らかの生命のサイクルによってなるべくしてなった事なのだから仕方がない。けど……。

学生時代の友人がオーストラリアのメルボルンに住んでおり彼女の家に何度か遊びに行ったが、庭先にある木々に夜になるとどこから湧いて出たのかポッサムが鈴なりにしがみついていた。夜行性の彼等は夜中に彼女の家の屋根で夜な夜な運動会をするのだそうだ。ポッサムはオーストラリアでは保護種、しかしここニュージーランドでは二度轢けと言われる程憎まれているただの害獣。私はこの事実

にやりきれない思いをどうすればいいのかわからなかった。バスの中でポロポロと涙がこぼれた。さらにガイドの女の子の話は続く。「でもポッサムも有効活用出来るのです。お土産屋に入ると軽くて暖かい軟らかい毛皮の製品がありますが、これはポッサムを利用し



て作られた物です」…確かに無駄に死なせるよりはと思ったが、実際そういう店に入り明らかにポッサムだとわかる帽子や手袋、ぬいぐるみを目にした時泣くのを我慢しろと言う方が無理だと思った。もし人間があなた達の祖先をニュージーランドに持ち込んだりしなかったらあなた達は今頃オーストラリアで幸せに安心して暮らしていただけるように、ごめんね、ごめんね、ごめんね、と…私には謝る事しか出来なくて、その商品を手にして暫くの間お店の端っこで泣いていた。

人間の身勝手や都合で本来何の罪も無い動物たちが無意味に殺されたり捨てられたりする事に関してはあまりにも悔しくて彼等が可哀想で申し訳なさ過ぎて涙腺が壊れてしまう

のである。

ただ…自分でも昔は気付かなかった。バブル期を駆け抜けた20代、ゴージャスが当たり前だったその頃は毛皮のコート、象牙やワニ革で出来た小物にうつつを抜かしフォアグラやフカヒレをエラそうに食べ、燃費の悪いスポーツカーを乗り回しなどといった有り様で、野性動物や環境の事など考えもしなかった。約30年前にカナダで買ったブルーフォックスのコートをまだ持っているのだが着ていない。いや、着られないし処分出来ないのである。それは正に無知で愚かでどうしようもなく馬鹿だった自分への戒めの象徴として

棺桶まで持って行かなければと思っ
ているからだ。人間の贅沢や見栄のためだけに犠牲になる動物たちを根絶しないといけない。もしその毛皮を私が手放し、誰かがそれに目をつけたら…絶対にそんな事をさせないという、このコートのために犠牲になった子への誓いと

十字架だと思っている。

話をポッサムに戻すと自分のした事とは次元が違う部分はあるが、いずれにしても人間の都合によって数を減らしている動物たちに思いを馳せ、どんなエピソードの商品かを良く考えた上で購入するなり買うのを止めたりするべきではないだろうか。需要があるから作られる訳で誰も買わなければ作れないのだから。

人間が欲張り出すと必ずと言っていい程動物たちや環境に悪影響を及ぼすという事を心に留めて。

～ On your side ～動物たちのこれからのために

次回もニュージーランドの旅からメッセージを伝えたい。



インフォメーション

イベント

◆あつぎ環境フェア

▽日時 10月29日(日)

▽場所:厚木中央公園

☆環境活動に取り組む市民団体、事業者、行政等が出展し活動を紹介するイベントです。

◆第38回 秦野市市民の日

▽日時 11月3日(金・祝)

▽場所:秦野市文化会館周辺

☆「お宝いっぱい 夢いっぱい」、「がんばろう日本! 負けるな東北! 負けるな九州!」をテーマに市民手作りのお祭りが開催されます。

◆動物フェスティバル神奈川 2017 in さがみはら

▽日時 11月5日(日)

▽場所:相模原市民会館

☆動物愛護精神の高揚と適正飼育について関心と理解を深めることを目的としたイベントです。

救護の会はそれぞれのイベントに出展し、普及啓発活動やグッズの販売を行います。
ボランティアスタッフも募集中! 事務局までメール又は電話でご連絡ください。

修了式

◆野生動物救護ボランティア講習会 修了式

▽日時:9月24日(日)

▽場所:自然環境保全センター

☆自然環境保全センターで今年度のボランティア研修を終えた皆さんの修了式です。

衝突調査

◆秦野市立図書館衝突調査

▽日時 毎月最終金曜日 →今後の調査日は9月30日、10月27日、11月24日

▽場所 秦野市立図書館

☆野生動物救護の会「バードストライク研究会」では窓ガラスへの野鳥の衝突調査を一緒に行ってくださる方を随時募集しています。興味のある方は事務局までご連絡を!

“救護の会 ブログ” 始まっています!

◆野生動物救護の会の活動の様子を楽しくご紹介!

日常のボランティア活動や、猛禽類の訓練風景(M project)、各種イベントのお知らせや報告などなど、随時更新しています。救護の会 HP トップページ
「救護の会ブログ始めました!」のバナーをクリックしてご覧下さい♪
アドレスはコチラ → <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/index.html>



* 詳細は当会ホームページをご覧ください *

☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、ボランティアスタッフの協力と設立趣旨にご賛同いただきました皆様方の寄付によって運営されております。

私たちの活動を支えてくださる賛助会員も同時に募集しています。

★一般会員:どなたでもご参加いただけます(年会費 2,000 円)

★学生会員:学生の方(年会費 1,000 円)

★賛助会員:当会の活動にご賛同いただき寄付をしていただいた方

----- 年会費:法人一口 5,000 円_個人一口 3,000 円_一口以上 -----

【振込先】

ゆうちょ銀行振替口座 : 00270-0-47040

名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

発行月:2017年9月 発行:特定非営利活動法人 野生動物救護の会 電話:0463-75-1830

〒259-1306 神奈川県秦野市戸川 1086 番地の 4 ホームページ:<http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>

編集者 表紙:大坪奈子(小林夏子)/10年目を迎えて:渡辺優子(森紀美子)/野生動物救護の会設立10周年お祝いのご挨拶:鳥海弘(森紀美子)/「野生動物救護の会」設立10周年に寄せて:山根正伸(森紀美子)/10周年記念活動:小林夏子/野生動物救護の会10年間の記録:神崎さつき/活動の現場:平沼亜矢子/大坪さんと“きみちゃん”のお話「カワラヒワの月見」:大坪奈子(渡辺みずほ)/ ~ on your side ~ 動物たちのこれからのために:伊熊智子(平沼亜矢子)/インフォメーション:神崎さつき